

ペアトレと環境作り

第8回 やってはいけない接し方3か条

こんにちは。

今回は、子どもの脳に影響を与えるマイナスの接し方についてお話ししたいと思います。

やってはいけない接し方



脳の発達を阻害

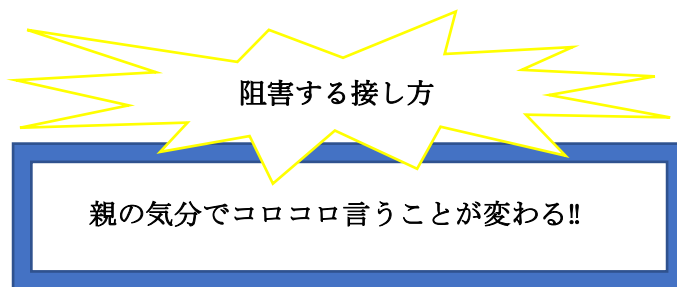
第1条 気分で言うことが変わる

発達障害圈の子どもの多くは
記憶系の脳の発達に遅れがあります

↓

学習が定着しない

何度同じことを言ってもなかなか身に付かない



↑

子どもの心：「あの時は怒られなかったのに今日は怒られた…」

やっていいことなの？いけないことなの？」

- ・ 一貫していない指示や声かけ＝記憶の定着を妨げる
- ・ ルールが一定しない場面＝わかりづらい環境
(臨機応変な対応を苦手とする発達障害の子どもにとって)
- ・ 言うことをコロコロ変える＝脳の記憶系にルールの定着を阻む

第2条 イライラ声で小言や暴言を繰り返す

記憶系の脳エリアに次いで未熟な脳エリアは感情系!!



相手の気持ちに共感
相手の考えを察知
自分の感情のコントロール

イライラをぶつけるように話す



荒々しい語気が子どもの感情系を過度に刺激



「怖い」「逃げろ」＝防御する姿勢をとらせる

「何をそんなにイライラしてんだよ」＝反感・反発

「お父さんは今日も機嫌が悪くて困る」＝ケロッとしてしまう



真意が伝わらない

☆声を荒げれば荒げるほど、

子どもの理解系の脳エリアには届かず、

いくら怒っても反省できない子どもになってしまいます

第3条 脳エリアにブレーキをかける接し方はしない

たとえば…

子どもの言ったことを言い返す接し方



理解系脳エリアが育つチャンスを奪う

なぜなら…

子どもの脳の活動にかかる時間は大人より長い



すぐに言い返すことで

子どもが理解するために必要な時間を奪っている

各脳エリアの発育を妨げる接し方

聴覚系：ガミガミ声

視覚系：面倒くさがる

理解系：すぐ言い返す

運動系：手をあげる

思考系：頭ごなしに叱る

伝達系：無視する

記憶系：気分で言うことが変わる

感情系：小言や暴言を繰り返す

それぞれの脳エリアが育つような接し方を心がければ、
子どもの脳が伸びやすくなるだけでなく、
大人の方も必要以上に力まなくなり、楽になります。

子どもも大人も
心穏やかに接することが
脳の成長を促す近道なのかもしれませんね。

参考・引用文献：発達障害の子どもを伸ばす 脳番地トレーニング
加藤俊徳著